

網膜新生血管を伴ったサルコイドーシスの1例

田中 和代¹⁾

山口 景子¹⁾

川端 昌子¹⁾

秋山 靖人²⁾

近藤 治男²⁾

1) 小松島赤十字病院 眼科

2) 小松島赤十字病院 呼吸器科

要 旨

サルコイドーシスに特徴的な眼症状を認めるとともに、網膜周辺部に新生血管を生じた1例を経験したので報告する。症例は23歳の男性。左眼の霧視、全身倦怠感を主訴として当科を受診した。視力は右1.2 (n. c.) 左1.2 (n. c.) 両眼に結節形成を伴う虹彩炎および網膜静脈炎が観察された。また胸部X線にて両側肺門リンパ節腫大 (以下 BHL) が認められ、眼所見とあわせてサルコイドーシスと診断した。1カ月後、左眼底の外上方に火炎状出血を生じ、新生血管も出現してきたため、その部にレーザー網膜光凝固術を施行した。現在、眼底出血は消退し、ステロイド治療によって、眼および肺病変も改善しており、視力1.5を維持している。

キーワード: サルコイドーシス、新生血管、血栓性静脈炎

はじめに

サルコイドーシスは、原因不明の肉芽腫性疾患であり、眼病変としては、豚脂様角膜後面沈着物・虹彩および隅角結節等がよく知られている。今回我々は、サルコイドーシス患者にこのような眼病変を認めるとともに、網膜周辺部に新生血管を生じた症例を経験したので報告する。

症 例

患 者: 23歳、男性。

初 診: 1993年6月1日。

主 訴: 左眼の霧視、全身倦怠感。

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし。

現病歴: 1991年頃より喫煙時に咳嗽・喀痰が著明となり、1993年5月頃より全身倦怠感および左眼の霧視も出現してきたため、精査加療目的にて当科受診した。

初診時眼所見: 視力は右1.2 (n. c.)・左1.2 (n. c.)。眼圧は右14mmHg・左14mmHg。両眼に豚脂様角膜後面沈着物を伴った虹彩炎および虹彩結節が認められた。また、前房隅角には結節およびテント状周辺虹彩前癒着がみられた。両眼底は、黄白色滲出物が存在し、網

膜静脈炎を呈しており、蛍光眼底写真ではその部分に一致した蛍光色素の漏出が認められた。

全身検査所見 (Table. 1): 末梢血では、白血球と単球が軽度増加していた。アンギオテンシン変換酵素は正常上限、ツベルクリン反応は陰性であり、蛋白分画および血液ガス分析は正常であった。胸部X線写真およびCTではBHLと肺野に多発浸潤影が存在し、ガリウムシンチでは縦隔および肺内にガリウムの集積が認められた。以上の臨床症状と検査結果より、サルコイドーシスと診断した。

Table. 1 laboratory studies

RBC	504 × 10 ⁴ / mm ³	T.P.	7.0 g/dl
Hb	16.0 g/dl	Alb	68.1 %
Ht	44.9 %	α ¹ -gl.	2.2 %
WBC	9790 / mm ³ ↑	α ² -gl.	11.3 %
St.	2 %	β -gl.	8.0 %
Seg.	60 %	γ -gl.	10.4 %
Eo.	4 %	blood gasses	
Ba.	1 %	pH	7.41
Mo.	9 % ↑	PaCO ₂	39.5 mmHg
Ly.	24 %	PaO ₂	85.3 mmHg
Plt.	27.1 × 10 ⁴ / mm ³	ガフキー	(-)
CRP	0.1 g/dl	chest Xray	} BHL + filtration to bilus ⊕
ESR	3 mm/hr	chest CT	
ACE	20.0 U/dl	⁶⁷ Ga scintigram	accumulation(+)
RA	(-)	Tuberculin test	(-)



Fig. 1 1 month later, left fundus of eye phlebitis and bleeding finding remarked in the upper lateral quadrant

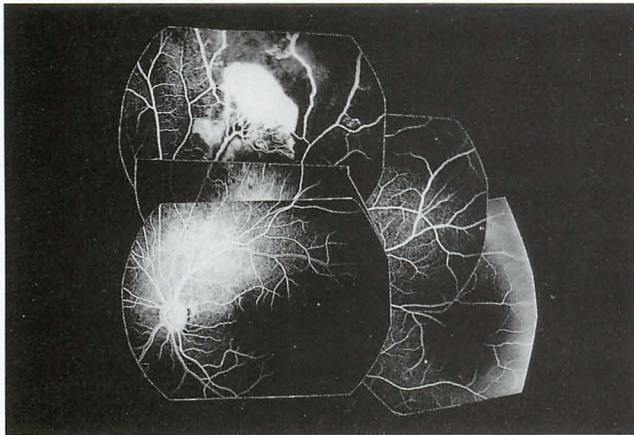


Fig. 2 5 monthes later, fluorescein angiogram of the left eye neovascularization into area of avascular retina and leakage of dye from it.

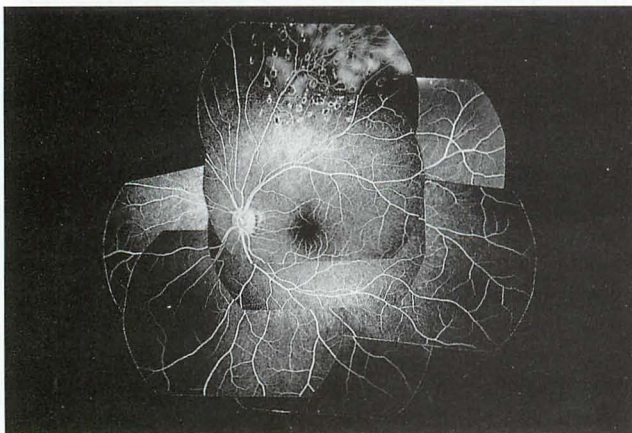


Fig. 3 1 year later, fluorescein angiogram of the left eye reduced the leakage and photocoagulated scar remarked on the upper portion.

経過および治療：初診から1カ月後の7月3日、左眼底外上方の静脈周辺に火炎状出血が出現した (Fig. 1)。この部分は初診時から静脈炎が著明であった。7月10日よりプレドニゾン40mg内服を開始し、12月6日まで徐々に漸減していき、総投与量は3262.5 mgとなった。眼科的には、ステロイドの点眼と止血剤を投与した。7月中旬頃から、咳嗽・喀痰等の呼吸器症状および両眼の炎症所見は次第に軽快していったが、左の眼底出血は消退せず、4カ月後の10月18日にはその部分に新生血管が出現し、著明となってきたため (Fig. 2)、11月19日レーザー網膜光凝固術を施行した。

1年後の1995年6月17日の左眼の蛍光眼底写真を Fig. 3 に示す。上方に光凝固斑を認め、新生血管および蛍光色素の漏出はかなり減少している。また、検眼鏡的には火炎状出血は存在せず、視力は1.5を維持している。

考 察

サルコイドーシスは、原因不明の全身性の肉芽腫性疾患であり、眼科的には、三大ぶどう膜炎の一つとして重要な位置を占めている。本症に認められる代表的な眼病変には、豚脂様角膜後面沈着物・虹彩および隅角結節・テント状周辺虹彩前癒着・雪玉状硝子体混濁・網膜血管炎・網脈絡膜滲出斑等が挙げられる。

本症例は、このようなサルコイドーシスに典型的な眼病変を認めるとともに、片眼に眼底出血が出現し、新生血管が生じている。眼サルコイドーシス症における網膜新生血管の発生は Spalton ら¹⁾ によると2%となっている。近年、本邦においても報告例が増加しており、検索し得た20例25眼^{2) - 10)}を Table. 2 にまとめた。半数以上が硝子体出血をきたしているが、今回は新生血管の発生のみでとどまっている。

サルコイドーシスにおいて、網膜血管炎 (主に静脈炎) の頻度は67.3%と大原¹¹⁾ は報告している。その静脈炎が高度になると、炎症因子により血管の内皮細胞が障害され、血小板が凝集付着した後に血栓が形成され、血栓性静脈炎となる。そして、発育した血栓により血管内腔は完全に閉塞され、その支配域の網膜は hypoxia となり、vasoformative stimulus が産生された結果、新生血管が生じると推測される¹²⁾。本症例においても、新生血管が出現した部分は、特に静脈炎が高度であった。

Table. 2 case report of retinal neovascularization associated with sarcoidosis in Japan (20 cases 25 eyes)

attack on both eyes		5 cases
vitreous haemorrhage		14 (Vit. 9)
Are of neovascularization	peripheral	17
	papillary	6
effect of treatment	PC only (effective)	8
	Vit. (effective)	5
	neovascularization remained	8 (4 SST only)

注：Vit.……vitrectomy
 PC……photocoagulation
 SST……systemic steroid therapy

治療に関しては様々な報告があるが、Table. 2に photocoagulation および vitrectomy における治療効果を示した。ただし、新生血管が消退したものを治療効果有りとする。約半数がなんらかの治療方法で治癒している。また、新生血管が残存した症例のうち、ステロイド療法のみのものが半数認められた。今回はステロイドを投与し、photocoagulation を施行して、新生血管はかなり減少したが、いまなお残存しており、眼サルコイドーシス症において新生血管が出現した場合、どのような治療法が一番適しているか、検討する必要があると思われる。

おわりに

サルコイドーシスに特徴的な眼病変を認め、眼底出血の後に、新生血管を生じた1例を経験したので報告した。

なお、本論文の要旨は第92回中国四国眼科学会・第44回四国眼科学会 合同眼科学会において発表した。

文 献

1) Spalton DJ, Sanders MD : Fundus changes

in histologically confirmed sarcoidosis. Br J Ophthalmol 65 : 348-358, 1981

- 2) 石田敬子：眼底出血を主徴としたサルコイドーシス症例. 臨眼 45 : 789-792, 1991
- 3) 大久保彰, 宮本孝文, 宮沢敦子, 他：網膜血管閉塞性病変を主徴とする眼サルコイドーシス. 眼臨 84 : 1070-1074, 1990
- 4) 山本美保, 栗本康夫, 砂川光子：Vitrectomy後に虹彩ルベオーシスをきたしたサルコイド性ぶどう膜炎の1例. 臨眼 44 : 716-717, 1990
- 5) 広瀬浩士, 原田敬志, 高良俊武, 他：硝子体出血を来したサルコイドーシスの症例. 臨眼 42 : 295-299, 1988
- 6) 中島徹, 谷口芳子, 上野真, 他：網膜新生血管を来した眼サルコイドーシスの2例. 眼臨 80 : 823-827, 1986
- 7) 橋本和彦, 宮久保純子, 多田博行, 他：重症型眼サルコイドーシスと硝子体切除術. 臨眼 39 : 638-639, 1985
- 8) 吉田晃敏, 高田恵子, 村上喜三雄, 他：両眼に網膜新生血管を認めたサルコイドーシスの1例. 眼紀 36 : 112-117, 1985
- 9) 金徳弼, 安藤伸郎：眼サルコイドーシスに続発したTractional Venous Loopの1例. 眼紀 36 : 1286-1289, 1985
- 10) 松田章男, 今井正雄：Peripheral Retinal NeovascularizationのみられたSarcoidosisの1例. 眼科 23 : 493-497, 1981
- 11) 大原國俊：眼病変を主病変とするサルコイドーシスの診断. 臨眼 48 : 13-18, 1994
- 12) Asdourian G K, Goldberg MF, Busse B J : Peripheral retinal neovascularization in sarcoidosis. Arch Ophthalmol 93 : 787-791, 1975

A Case of Sarcoidosis with Retinal Neovascularization

Kazuyo TANAKA¹⁾, Keiko YAMAGUCHI¹⁾, Masako KAWABATA¹⁾,
Yasuto AKIYAMA²⁾, Haruo KONDO²⁾

1) Division of Ophthalmology, Komatsushima Red Cross Hospital

2) Division of Respiratory Medicine, Komatsushima Red Cross Hospital

We reported a case of sarcoidosis with characteristic ocular symptoms and neovascularization in the peripheral area of retina.

The 23-year-old male patient visited doctor due to blurred vision of his left eye and general fatigue. The iritis with nodular formation and retinal thrombophlebitis was found in his both eyes. Because the bilateral hilar lymph nodes (BHL) were also found enlarged on X-ray, a diagnosis of sarcoidosis was made. One month later, the patient developed flame-shaped bleeding and neovascularization at the lateral upper fundus, and thus received a laser photocoagulation treatment on the diseased area. The retinal hemorrhage was now cured and both the ocular and pulmonary lesions were improved under the administration of steroid, with the visual acuity maintaining at 1.5.

Keywords : sarcoidosis ; neovascularization ; thrombophlebitis

Komatsushima Red Cross Hospital Medical Journal 2 : 49-52, 1977
